

令和7年度 第1回
首里城公園管理体制構築検討委員会

【資料2】防災設備等の運用体制

1－1. 防災設備等の運用体制検討(令和7年度検討事項)

防災設備等の運用体制検討について、令和7年度の検討事項は以下のとおりである。

第1回首里城公園管理体制構築検討委員会では、下記のうち、赤枠の事項について検討する。

(1) フェーズ⑥～⑧における初動対応マニュアル等の追加検討

フェーズ⑥～⑧における初動対応については、主に次の事項について検討予定。

■グリッドマップの検討・作成

- 首里城公園の初期消火、避難誘導、応急救護等の情報共有時における場所特定に資するため、首里城公園のグリッドマップを検討・作成する。

第1回の検討事項

■避難動線の確保及び雑踏事故の未然防止の対応検討

- 車いす使用者の避難動線の確保、雑踏事故の未然防止を目的として、混雑時の待機列を形成する場所、待機列のパターン、警備員・誘導員の連携方法等の検討を行う。

■滞在者数の測定方法の検証

- 令和6年度に実施した素屋根見学エリアの通過計測機器を使用し、新たなフェーズにおける滞在者数測定方法の検証を行う。

(2) 公園利用者・現場スタッフ向け防災設備等の取扱いに係るツールの詳細検討

- 公園利用者・現場スタッフ向けの防災設備等の取扱いツールについて詳細検討を行う。

(3) リスクアセスメント体制構築・運用の詳細検討

- 令和6年度に策定した「リスクアセスメント体制構築・運用（案）」を活用し、リスクアセスメントの実施・検証・評価を行い、課題等を抽出し、運用（案）の修正を行う。

(4) フェーズ⑨の初動対応等検討に向けた課題抽出

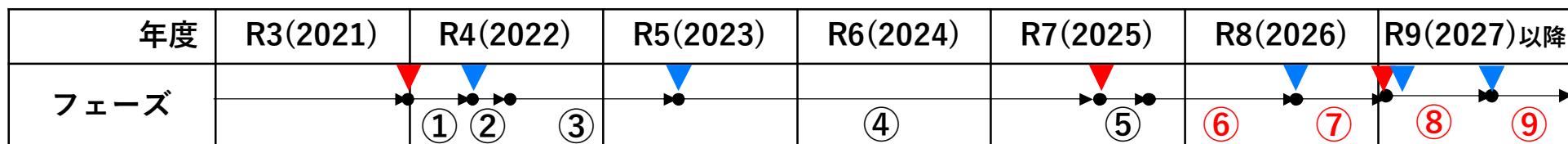
- 国の北殿整備に係る検討と連携し、フェーズ⑨における利用者動線、避難動線など初動対応等検討に係る今後の課題を抽出する。

1 – 2. 防災設備等の運用体制検討

■工事の状況等に応じたフェーズごとの検討

- 各工事の状況等の変化に応じてフェーズが設定され、正殿工事期間中は6つのフェーズに分かれている。令和7～8年には、
【フェーズ⑥】正殿・両廊下・仮設階段棟の工事に移行していく予定である。
- 令和7年度は、令和6年度に引き続き、正殿工事期間中（正殿・両廊下・仮設階段棟建設中）及び正殿完成時の初動対応等の詳細検討として、フェーズ⑥⑦⑧における避難誘導等の運用体制、人数制限と管理方法を検討し、過年度に作成した初動対応等マニュアルの追加検討を行う。また、国が実施している北殿整備に係る検討と連携し、フェーズ⑨における運用体制上の課題を整理する等の検討を行う。
- 第1回首里城公園管理体制構築検討委員会では、フェーズ⑥～⑦の見学デッキ拡張における避難誘導等の運用体制、待機列の検討のほか、初動対応時の位置情報の共有に資するグリッドマップについて検討を行う。

▼：開園エリアの区域増 ▼：開園エリアの区域減



| フェーズ | | 時期 | 開園エリアの区域増 | 開園エリアの区域減 |
|------|---------------------|-------|-------------|----------------------|
| ① | 木材倉庫・原寸場工事中 | R4 | — | 正殿遺構 周辺 |
| ② | 木材倉庫・原寸場 完成～素屋根着工前 | R4 | 原寸場廻り見学デッキ | — |
| ③ | (正殿復元整備工事が起工)素屋根工事中 | R4-R5 | — | — |
| ④ | 素屋根完成 正殿工事中 (素屋根内) | R5-R7 | 素屋根見学エリア | — |
| ⑤ | 正殿工事中 (仮設施設解体撤去中) | R7 | — | 見学デッキの一部 素屋根見学エリア |
| ⑥ | 正殿・両廊下・仮設階段棟工事中 | R7-R8 | 見学デッキ拡張スペース | — |
| ⑦ | 正殿完成時 | R8 | 正殿 | — |
| ⑧ | 北殿工事中 | R9 | 御庭の一部 | 見学デッキ |
| ⑨ | 北殿完成、御庭整備中 | R9以降 | 北殿 | — |

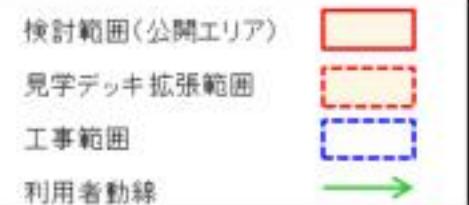
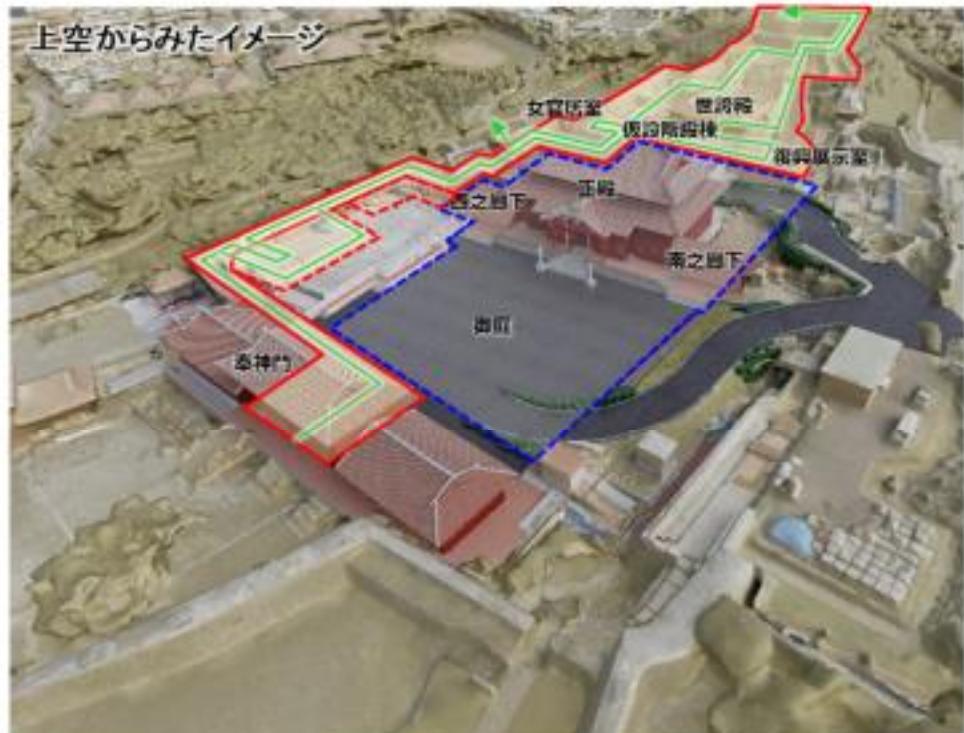
2. フェーズ⑥正殿・両廊下・仮設階段棟工事中～フェーズ⑦正殿完成時の概要

(1) フェーズ⑥ (正殿・両廊下・仮設階段棟工事中) の概要

- ・素屋根が解体され、正殿の外観を見ることができる。正殿の内部・両廊下・仮設階段棟が工事中の状態となる。
- ・見学デッキが段階的に拡張され、見学デッキから正殿を臨むことが可能となる。

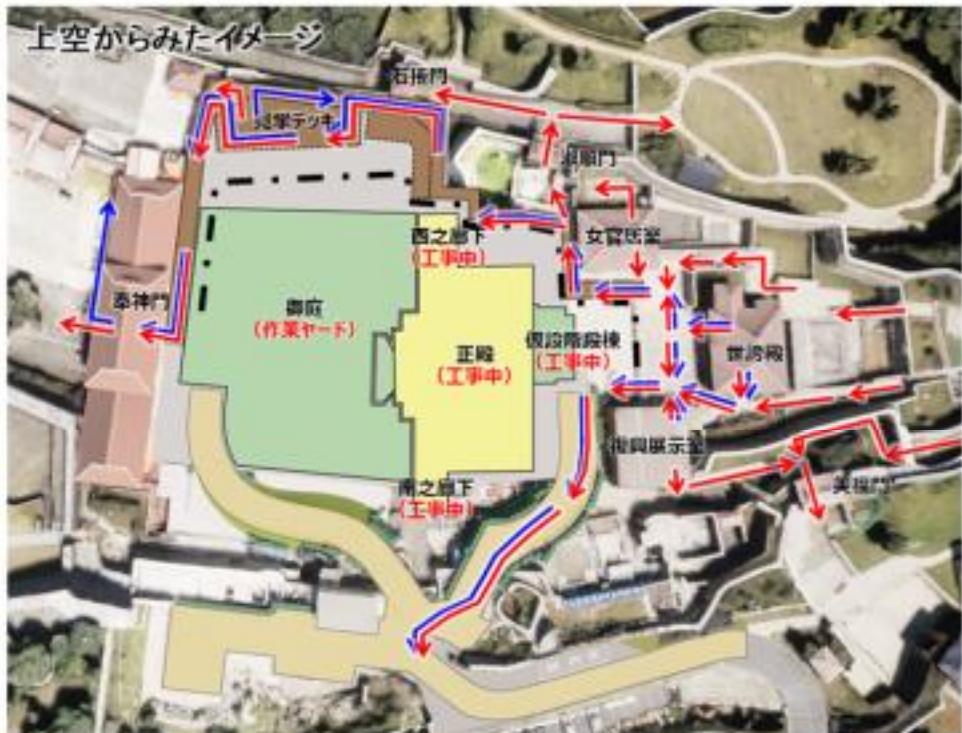
■利用者動線

奉神門→見学デッキ(屋外展示)→復興展示室→世誇殿
→東のアザナ→女官居室→淑順門



■避難動線

- ・見学デッキの拡張を検討することにより、滞留空間を確保する。



※見学デッキの形状等は今後の詳細検討により若干変更する場合がある

2. フェーズ⑥正殿・両廊下・仮設階段棟工事中～フェーズ⑦正殿完成時の概要

(2) フェーズ⑦(正殿完成時)の概要

・正殿・両廊下・仮設階段棟の供用が開始される。見学デッキの形状はフェーズ⑥から変更なし。

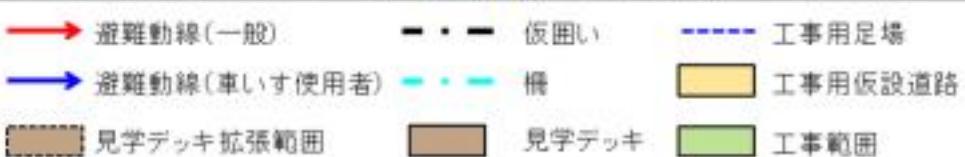
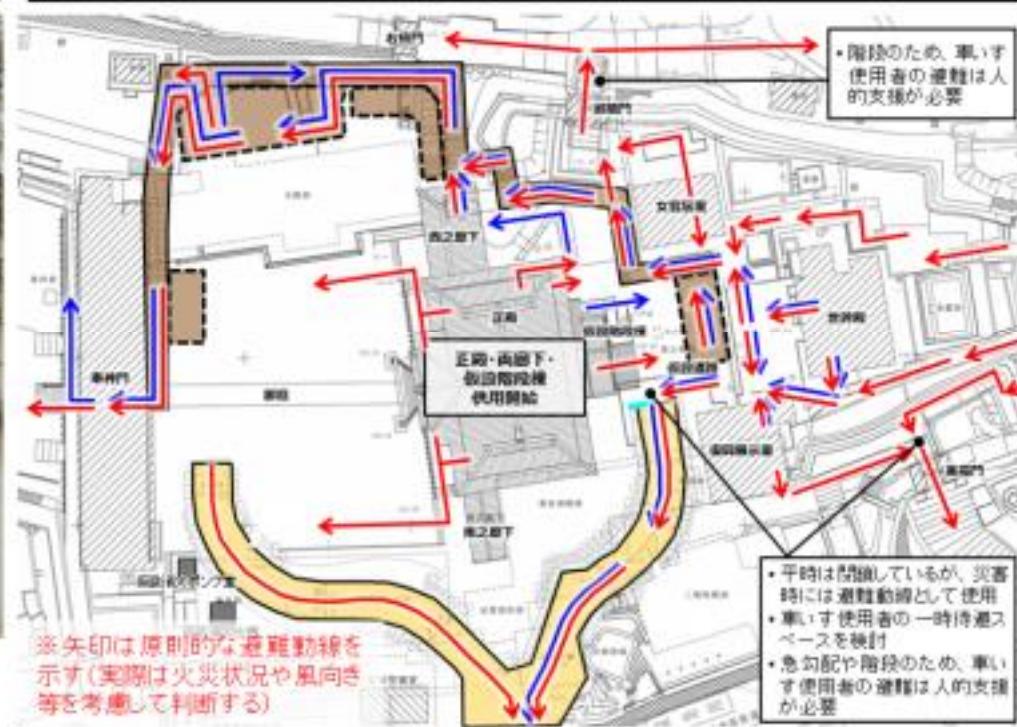
■利用者動線

奉神門→見学デッキ(北殿跡含む)→西之廊下・正殿→後之御庭→復興展示室→世誇殿→東のアザナ→女官居室→淑順門



■避難動線

- 有料区域の避難は奉神門、淑順門を使用するが、淑順門は階段のため、車いす使用者は奉神門からの避難となる。
- 災害等の状況に応じて工事用仮設道路や美福門を通過する避難動線も想定されるため、車いす使用者の一時待避スペースの検討が必要。



※見学デッキの形状等は今後の詳細検討により若干変更する場合がある

2. フェーズ⑥正殿・両廊下・仮設階段棟工事中～フェーズ⑦正殿完成時の概要

【参考】フェーズ⑥の初動対応

- 令和6年度には、フェーズ⑥の開園エリア全体の初動対応を検討した。その際に工事現場での非常時には、奉神門や女官居室、東のアザナ等から初期消火・避難誘導の応援を呼び、対応することを確認した。
- 第1回検討委員会においては、見学デッキの拡張工事の詳細が国から示されたため、改めて初動対応を検討する。

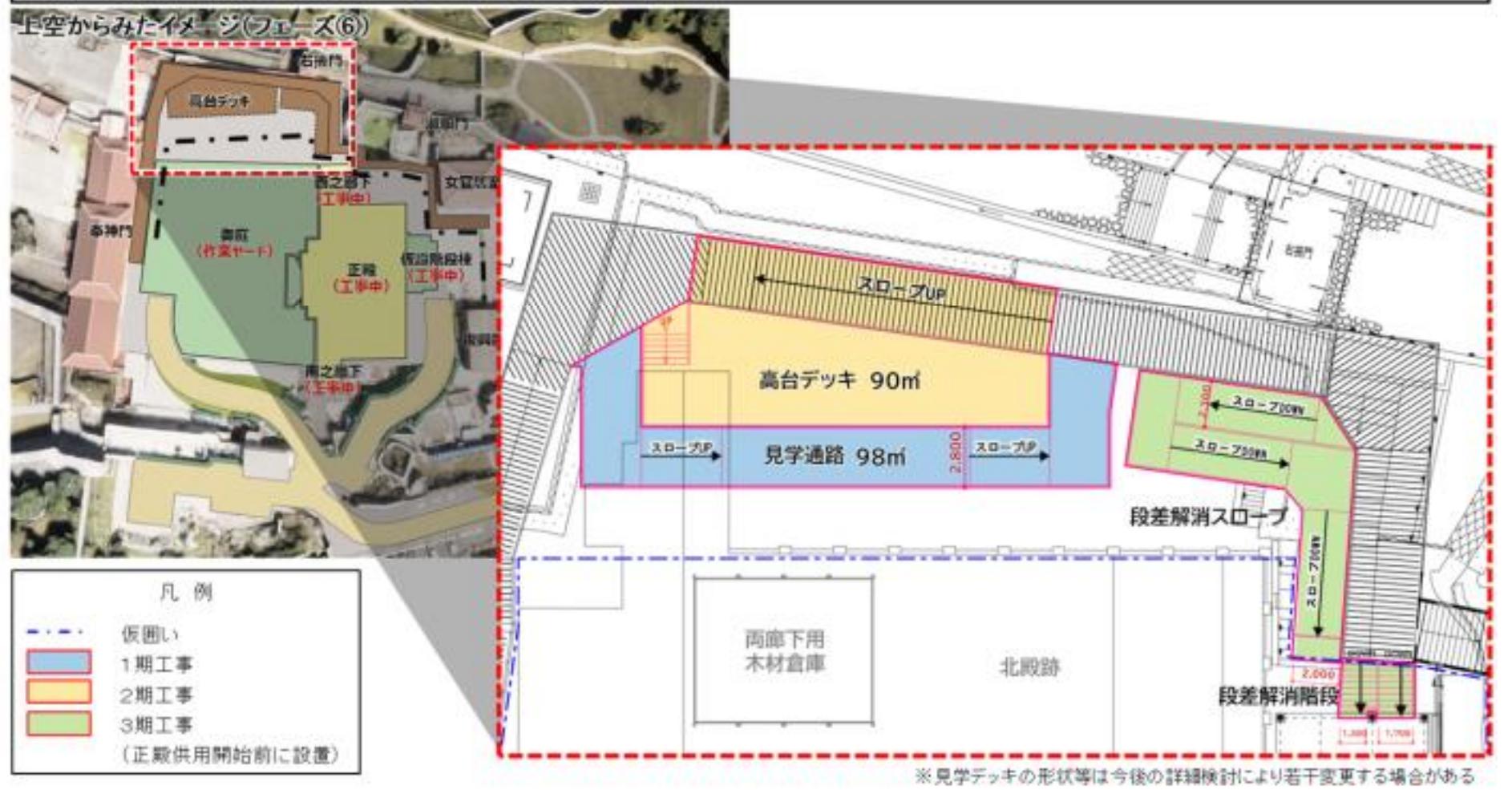


2. フェーズ⑥正殿・両廊下・仮設階段棟工事中～フェーズ⑦正殿完成時の概要

(3) フェーズ⑥～⑦における検討事項

- ・フェーズ⑥～⑦では拡張された見学デッキにおける平時の混雑緩和と、緊急時の避難誘導が課題となるため、拡張工事ごとに変化する見学デッキでの初動対応と、混雑緩和のための待機列パターンを検討する。

- フェーズ⑦(正殿完成時)までに見学デッキの拡張工事を3期に分けて実施する。
- 1期工事(フェーズ⑥-1)は見学通路、2期工事(フェーズ⑥-2)では高台デッキとスロープを整備する。1期工事の施工期間は素屋根解体後の1ヵ月間程度、2期工事の施工期間は1期工事後の2ヵ月間程度を想定。
- 3期工事(フェーズ⑥-3)は既存見学デッキと西之廊下との段差を解消するため、階段及びスロープを設置する。施工時期は、西之廊下工事の進捗に合わせ次年度を予定。



3. フェーズ⑥-1：見学デッキ1期工事完了時

(1) 通常時（昼間）

- 動線が見学通路のみとなり、一般利用者の往路（一方通行）と、車いす使用者の往路・帰路（双方向通路）が同じ動線となる。利用者が多い時間帯では、見学通路の一部で正殿撮影のために人の滞留が想定されることから、見学デッキの踊り場と通路にスタッフを配置し、誘導を行う。
- バス駐車場予約システムで利用者人数を予測し、多い時は事前に人員を増加配置するなどの対応をとる。 **（フェーズ⑥⑦共通）**

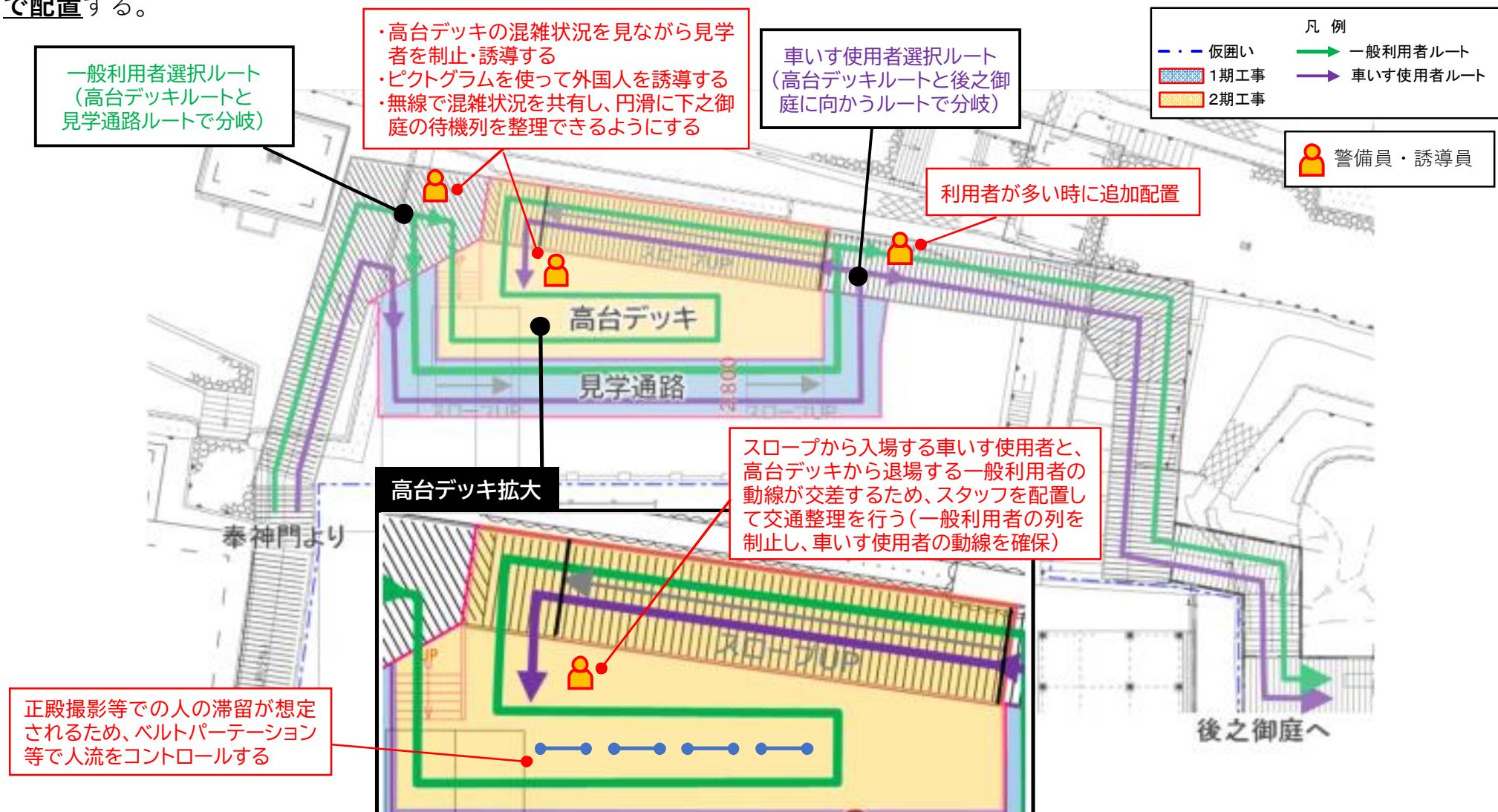


- 図版：令和7年度第1回首里城復元に向けた技術検討委員会（R7.8.27）
資料4を基に作成（赤字吹き出し、警備員・誘導員を加筆）
- 正殿イメージバース：国営沖縄記念公園事務所提供

4. フェーズ⑥-2：見学デッキ 2期工事完了時

(1) 通常時（昼間）

- 高台デッキが整備されることで、一般利用者と車いす利用者の動線に分岐が出てくる。
- 正殿撮影等での人の滞留が想定されること、高台デッキでは一般利用者と車いす利用者の動線が交差する場所があることから、見学デッキの踊り場と高台デッキにスタッフを2人配置し、誘導を行う。利用者が多いと想定される時間帯は、スタッフを追加で配置する。

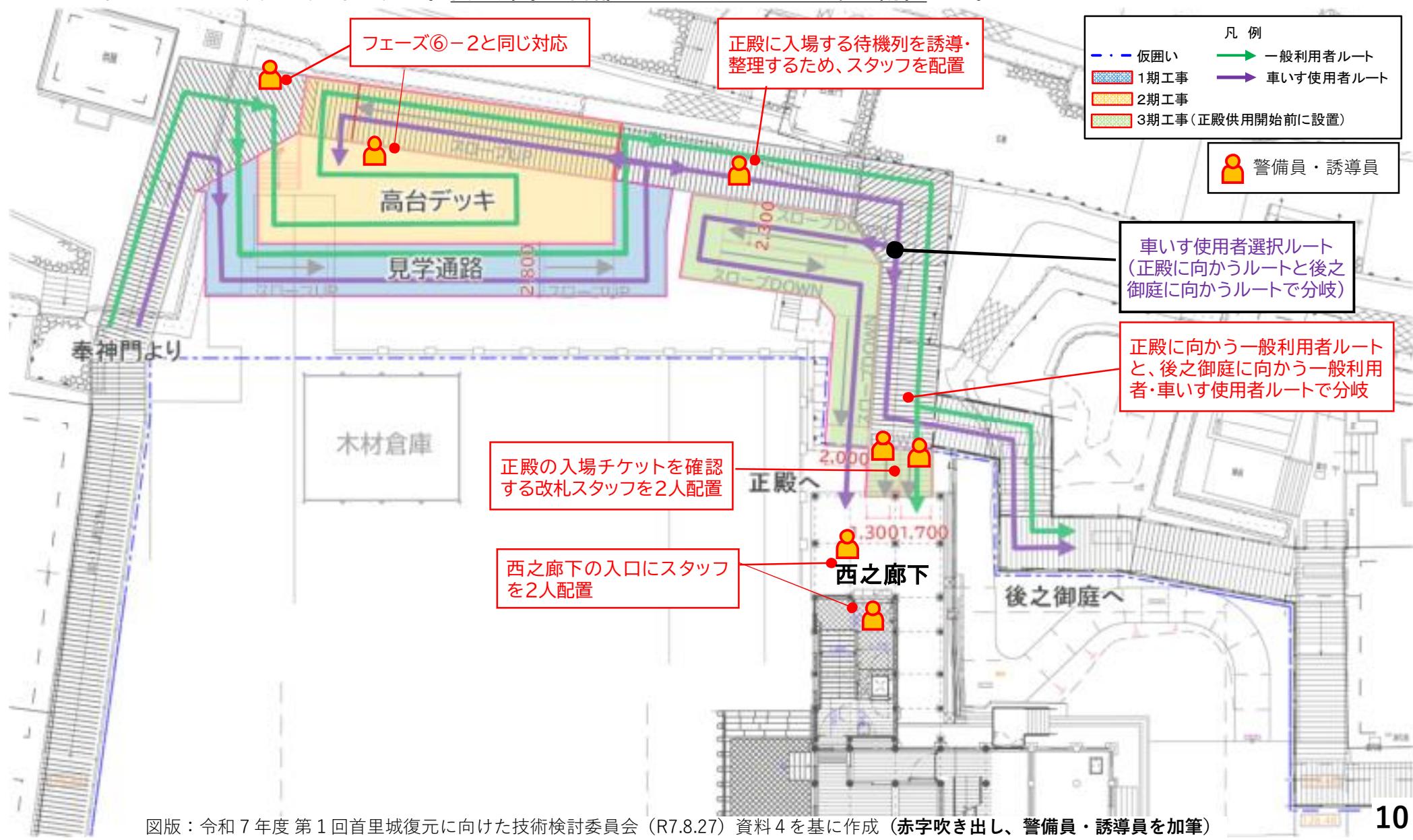


・図版：令和7年度第1回首里城復元に向けた技術検討委員会（R7.8.27）資料4を基に作成（赤字吹き出し、警備員・誘導員を加筆）

5. フェーズ⑦：正殿完成時

(1) 通常時

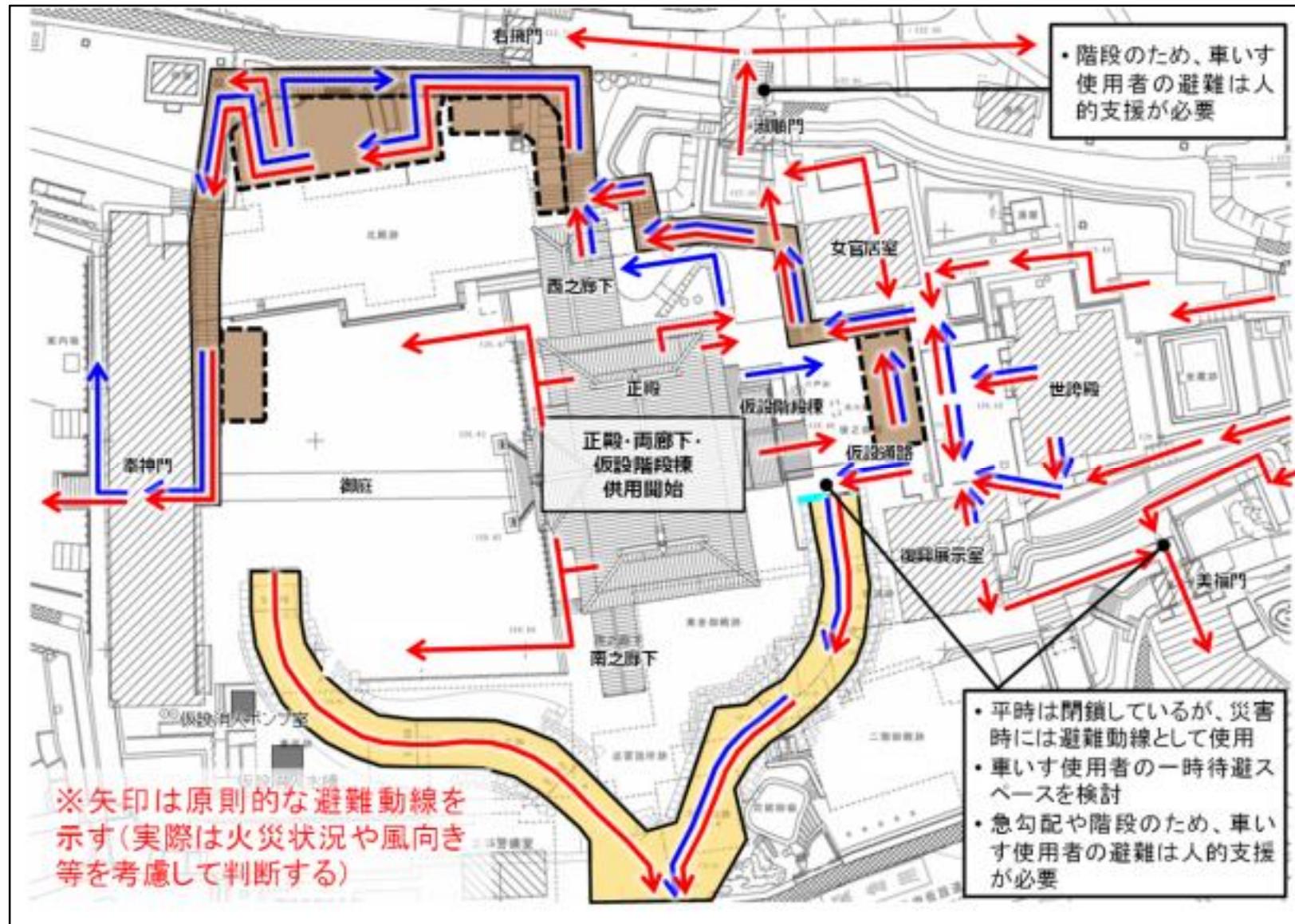
- ・高台デッキと見学通路の動線と、スタッフの対応は、フェーズ⑥-2と同じとなる。
- ・西之廊下までの見学デッキに正殿入場の待機列が想定されるため、見学デッキに誘導員を1人配置する。
- ・西之廊下の手前で、正殿へ向かうルートと後之御庭に向かうルートに分岐する。西之廊下の手前にもスタッフを2人配置し、入場時のチケット確認・誘導を行う。西之廊下の内部にはスタッフを2人ずつ配置する。



5. フェーズ⑦：正殿完成時

【参考】フェーズ⑦の避難動線

- ・国の技術検討委員会ではフェーズ⑦の避難動線が下図のとおり示されている。
- ・工事現場や見学デッキでの発災時には、奉神門や女官居室、東のアザナ等から見学デッキの避難誘導・初期消火の応援を呼び、対応する。



5. フェーズ⑦：正殿完成時

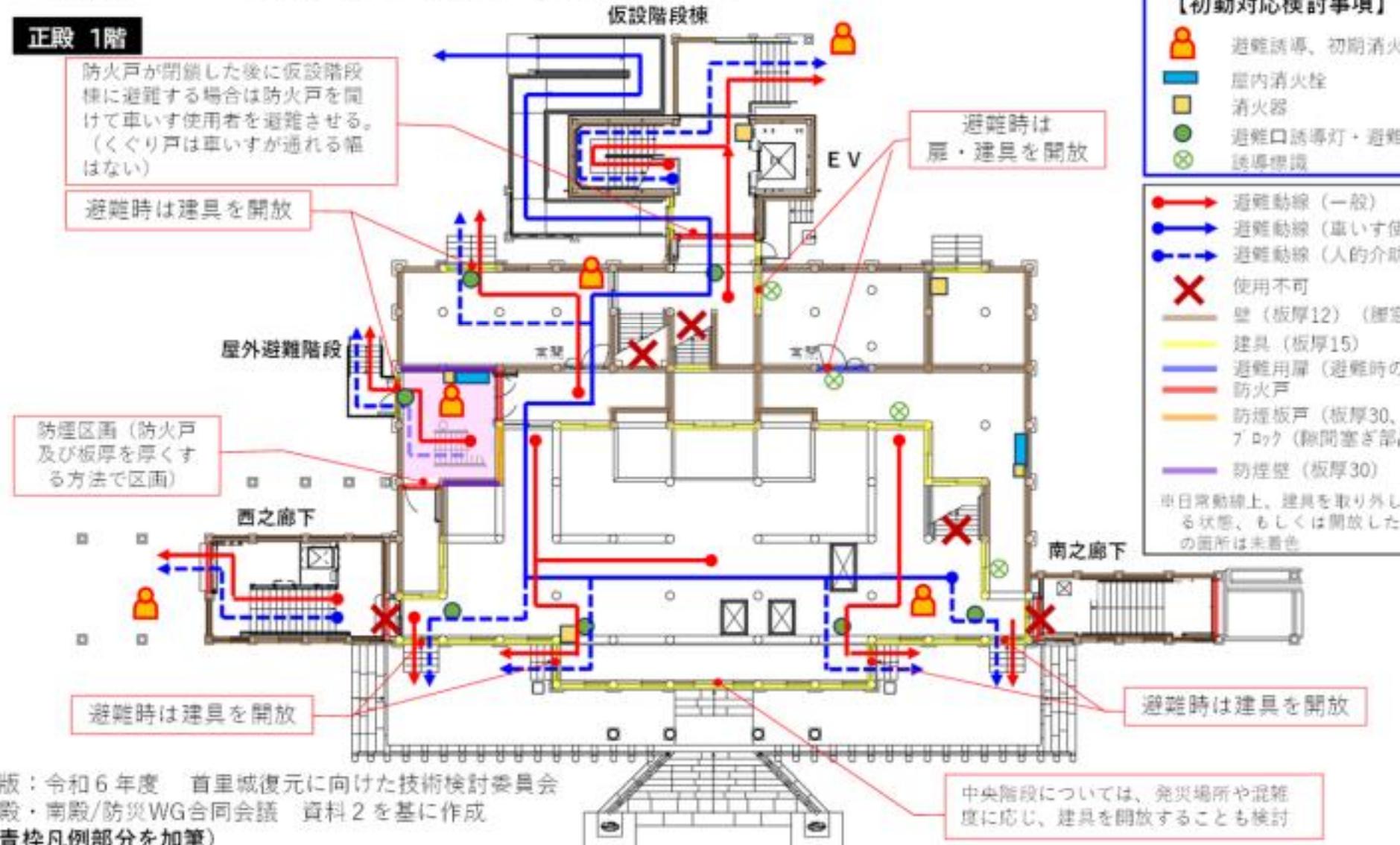
引用_令和6年度第2回首里城復元に向けた技術検討委員会_資料6 沖縄県首里城公園管理体制構築検討状況について(R7.2.21)

■フェーズ⑦⑧における正殿内部の避難動線、警備員配置の検討【1階】

<初動対応の方針>

- ・発災場所に近い現場スタッフが初期消火を行い、避難誘導係は建具開放と避難口への誘導を行う。
- ・車いす使用者は、仮設階段棟スロープの使用を基本とするが、人的介助が可能であれば、一般の避難動線と同じルートからの避難も想定する。
- ・消火器については、強化液型の消火器の活用も検討する。

正殿 1階

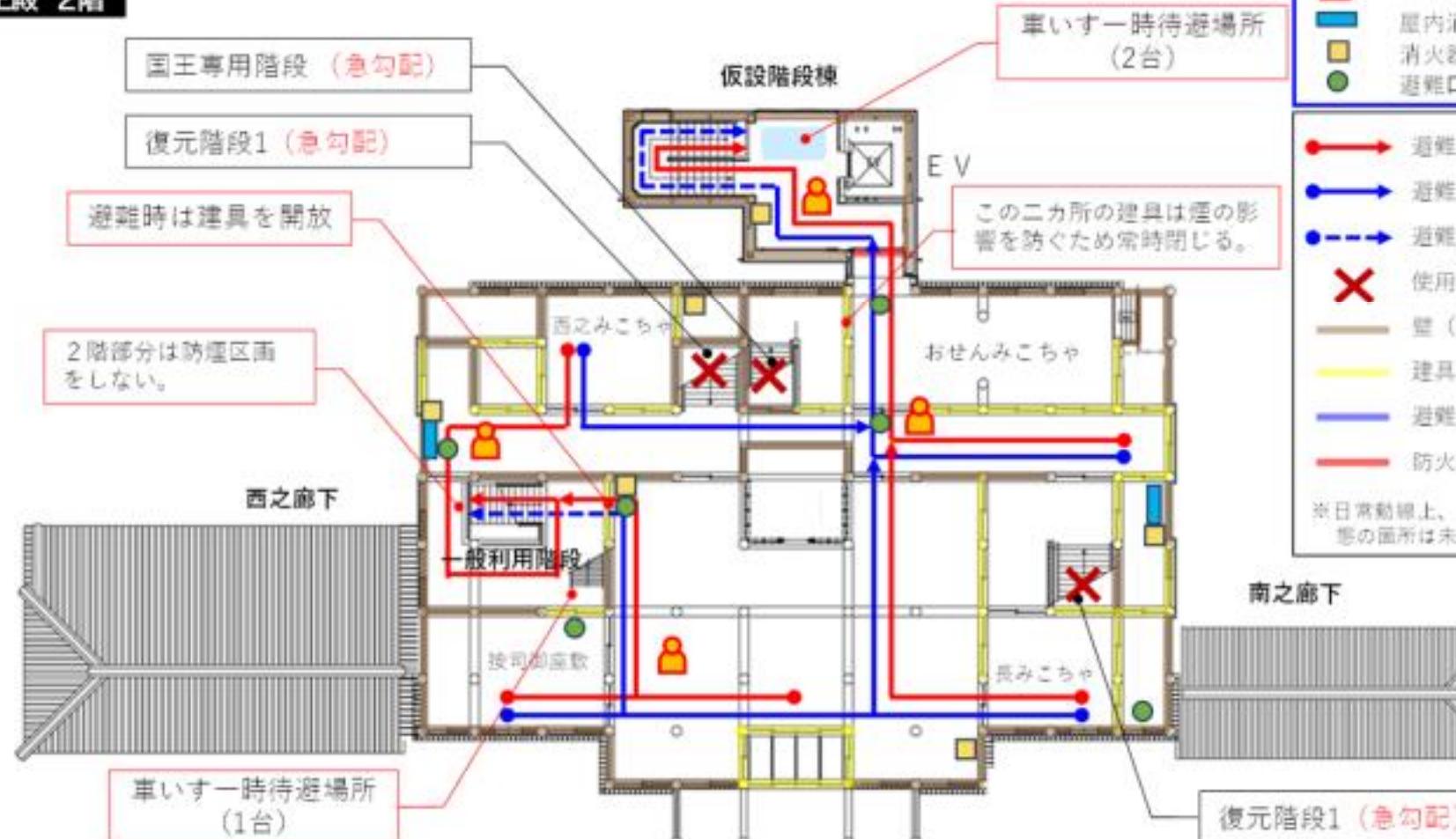


■フェーズ⑦⑧における正殿内部の避難動線、警備員配置の検討【2階】

<初動対応の方針>

- ・一般利用者は、一般利用階段及び仮設階段棟を使用して避難する。
- ・車いす使用者は、一般利用階段及び仮設階段棟にて、現場スタッフ(3~4名)による人的介助で避難する。
- ・避難誘導係は、建具などによる死角に配慮し、逃げ遅れがないかを確認しながら誘導を行う。
- ・消火器については、強化液型の消火器の活用も検討

正殿 2階



【初動対応検討事項】

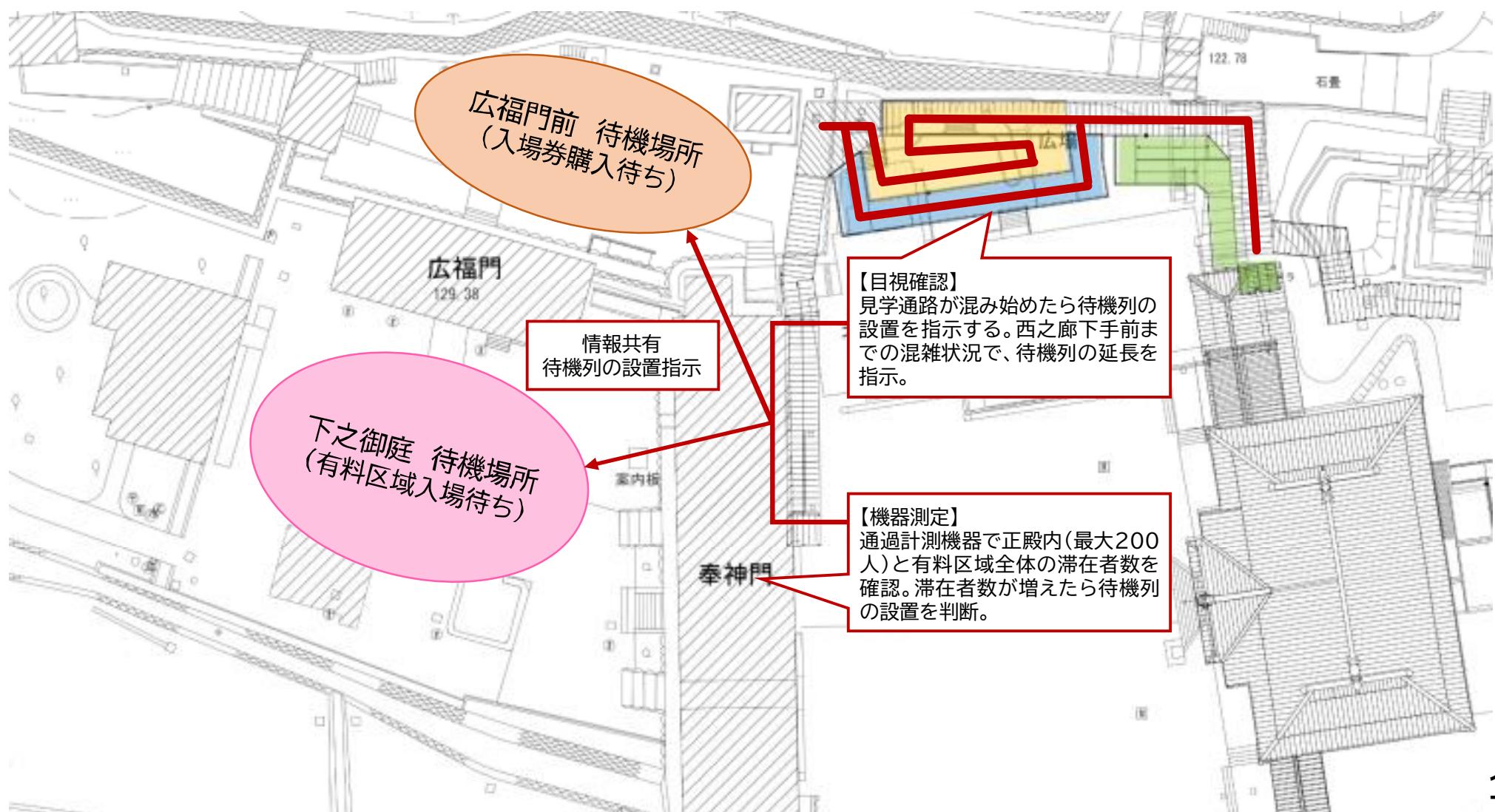
- | | |
|--|-----------------|
| | 避難誘導、初期消火 |
| | 屋内消火栓 |
| | 消火器 |
| | 避難口誘導灯・避難誘導灯 |
| | 避難動線 (一般) |
| | 避難動線 (車いす使用者) |
| | 避難動線 (人的介助あり) |
| | 使用不可 |
| | 壁 (板厚12) (腰窓含む) |
| | 建具 (板厚15) |
| | 避難用扉 |
| | 防火戸 |

*日常動線上、建具を取り外している状態の面所は未着色

6. フェーズ⑥～⑦の待機列

(1) 待機列の考え方

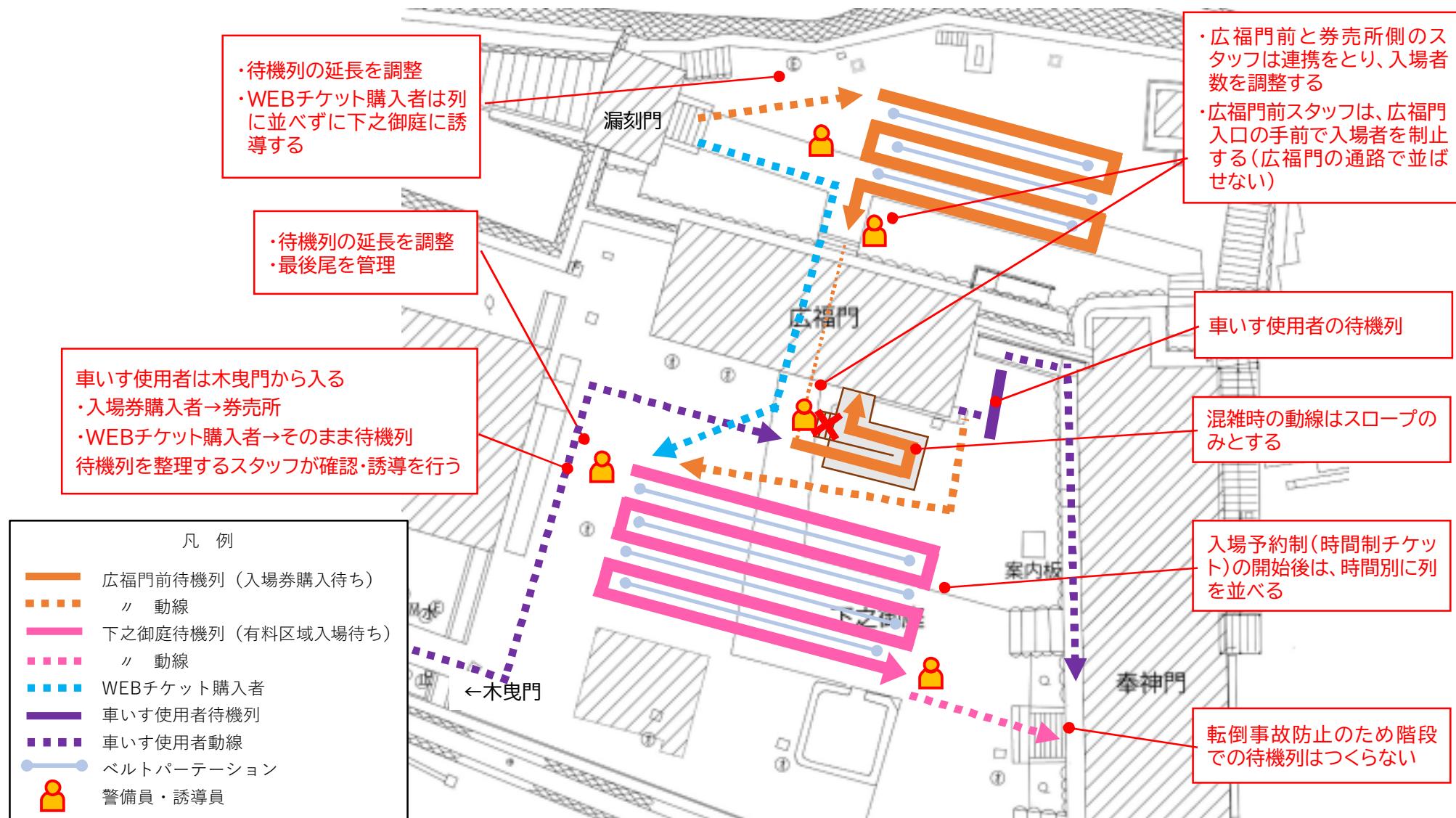
- ・有料区域（見学デッキ）の混雑緩和のため、広福門前及び下之御庭に待機列を設置する。
- ・広福門前では券売所（有料区域入場券）の待機列、下之御庭では有料区域入城の待機列とする。
- ・待機列は事前にパターンを設定し、有料区域（見学デッキ）の混雑状況や待機人数にあわせて現場で延長～縮小を判断する。
- ・待機列設置の判断は、①目視による見学デッキの混雑開始（現場スタッフ・奉神門警備室判断）、②通過計測機器による滞在者数把握（正殿内・有料区域全体、奉神門警備室判断）を想定する。
- ・待機列とともにさらに混雑緩和を図るため、今後は首里城正殿の入場予約制（時間制チケット）の検討を行う。



6. フェーズ⑥～⑦の待機列

(2) 下之御庭・広福門前の待機列パターン

- ・広福門前は券売所で入場券を購入する一般利用者を対象とし、有料区域（見学デッキ）と券売所の混雑状況に応じて、待機列を延長する。WEBチケット購入者は列に並ばず下之御庭に誘導する。
- ・下之御庭は有料区域（見学デッキ）の混雑状況に応じて、待機列を延長する。動線と安全確保のため、大龍柱展示室～首里森御獄の間に待機列をつくる。
- ・車いす使用者は一般利用者とは別の待機列・動線とする。



7. グリッドマップの作成について

【目的】

首里城公園は、複数の建物や広場等の多様なエリアを含むため、現場での位置特定や情報伝達におけるエリアの認識のずれに課題があった。そこで首里城公園の初期消火、避難誘導、応急救護等の情報共有時における場所特定に資するため、首里城公園のグリッドマップを検討・作成する。

【作成方針】

(1) マップの考え方

- 公園外部の機関（消防及び警察等）と共有し、非常時にマップで位置が確認できるような仕様を基本とする。
- 建物は1棟ごとに1つのマップとし、建物内部の視認性にあわせてグリッドで分割する。
- 公園内部との連絡については、日常的に共有している施設名や方角との組み合わせた呼称等も併記し、現場スタッフとのスムーズな連携にも資するようにする。（例：京の内の北側）

(2) マップの種類

- 公園全体のマップの他、国営区域、御庭エリア、建物（正殿、奉神門等）について分割したマップを作成する。

(3) 今後の作業の進め方（案）

- 城郭内外が混在する箇所については、区域範囲を大きくするか、細分化して死角が生じないようにする。
- 国営区域の防犯カメラや感知器との連動、警戒区域の反映等、防災・防火管理に係る情報を掲載する。



正殿内部グリッドマップイメージ